

「コミュニティのミライを考える」

まちづくり

ニュース

Vol.2

コミュニティのミライを共に創る
これからのまちの姿の実現に向けて

谷塚中央地区

会 場：谷塚文化センター
第1・2学習室

時 間：18：30～21：00
(18：00受付開始)

第1回：8月26日（月）

第2回：9月26日（木）

第3回：2月6日（木）

※第2～3回の間にモデルプロジェクト実践に向けて
参加者有志でトライアルの取組みを実施する予定。

新田西部地区

会 場：勤労福祉会館
ホール

時 間：18：30～21：00
(18：00受付開始)

第1回：8月27日（火）

第2回：9月20日（金）

第3回：2月7日（金）

※第2～3回の間にモデルプロジェクト実践に向けて
参加者有志でトライアルの取組みを実施する予定。

谷塚中央地区と新田西部地区では昨年に引き続き今年も「コミュニティのミライを考える」地区別懇談会を開催します。
今年は昨年の懇談会でまとめたプロジェクトの「タネ」をより具現化させ、実現に向けて加速して取り組んでいきます。
今回のまちづくりニュースでは、このプロジェクトの「タネ」を詳しく紹介し今後の進め方などについてお伝えします。

対 象

地区内にお住まいの方
谷塚中央地区：谷塚町、谷塚1～2丁目
新田西部地区：新栄1～4丁目、長栄1～4丁目、清門1～3丁目、
新善町、金明町、旭町1～6丁目

定 員

申込制／各地区先着60名（なるべく全3回の参加を
お願いします。難しい場合はご相談ください。）
※定員超過で受付不可の場合のみ連絡します。

申込方法

締切 8月9日(金)必着

氏名（ふりがな）、年代、電話番号、メールアドレス、住
所、（まちづくりに関する団体に所属している場合）ご所
属、関心のあるテーマを添えて直接持参するか、電話、FAX
またはEメールにてお申込みください。

テーマ：「地域福祉・多世代交流」「賑わい」「子育て」「子どもの教育・遊び場」「防犯・防災」

問い合わせ先

〒340-8550 草加市高砂1-1-1
草加市 都市計画課 計画係
電話 048-922-1790 FAX 048-922-3145
Eメール toshikeikaku@city.soka.saitama.jp

1 昨年の懇談会でまとまったプロジェクトの「タネ」を紹介します

谷塚中央地区と新田西部地区での昨年度の懇談会を通してまとまった、たくさんのプロジェクトの「タネ」を紹介します。これらは懇談会を通して参加者の皆さんが時間をかけて、身近な資源や課題を洗い出し、身近なまちをより良くするため、課題解決のための取組や活動をまとめたものです。



これからの谷塚中央地区

まちづくりのタネ

#01 ふくし みんなが水路を歩いておしゃべりし、健康づくりにつながるしかけをつくるプロジェクト

- 水路沿いにベンチを置いておしゃべりしやすい環境を整える
- 近隣の保育園のお散歩コースに設定し、スタンプラリーを通じて子どもとシニアの交流につなげる
- 地域の史跡などを紹介するボランティアガイドとも連携し、地域資源を紹介するイベントを行う
- ウォーキングマップを作成し、地域の見どころを紹介する

#02 にぎわい 商店同士の交流を生み出すプロジェクト

- 商店でほぼ毎日出される段ボールを、商店街全体で集めることから始めることで自然と店名や名前を覚え、あいさつができる関係を構築する
- 商店主同士が利用できるサービスチケットを発行し、お互いのお店を利用し合うことで理解を深め、交流のきっかけづくりを行う
- 顔見知りになる関係から、少しずつ担い手を集める

#03 にぎわい お客さんと商店の交流を生み出すプロジェクト

- 歴史の話ができる、子どもを短時間なら預かれるなど、商売以外でできることを「できることステッカー」として掲示し、お客さんとの交流を図る
- 学校とコラボして、イベント時に子どもが描いた絵を商店街で飾ることで交流のきっかけをつくる
- すべての商店の前にベンチを設置し、気軽に休めるだけでなく新聞や将棋盤などコミュニケーションのきっかけになるツールも設置する

#04 こそだて 親子で楽しく集まれる原っぱ冒険プロジェクト

- 大きな砂場、アスレチック、ドッグラン、野球やサッカー夏はプール、冬はスケート場など、子どもにとって多様な遊びや体験が選択できる環境をつくる
- お年寄りが子どもに遊びを教えたり、子育ての相談ができる交流スペースも併設する

#05 つながり 子どもが企画する文化的な多世代交流の機会をつくるプロジェクト

- 近所で行うラジオ体操を夏休みだけでなく習慣化し、子どもが運営を行うことで健康づくりにもつながり、あいさつも習慣になる
- 町会や商店街のイベントを子どもと一緒に企画する
- 子どもが積極的に手伝う「子ども食堂」を開設し、親子で料理などの準備に関わり「食」を通じた交流を促す

#06 あんしん 既存の防犯・防災活動をさらに充実させるプロジェクト

- スクールガードなどの今ある活動や組織を充実させるために「活動の困りごと」を相談できる窓口や場をつくる
- 市や中間支援組織が活動をサポートする仕組みを充実させる

#07 あんしん 防災の映画をみんなでつくるプロジェクト

- 市民が出演する防災の映画を製作し、谷塚文化センターや町会会館等で上映する
- 映画製作や防災の知識がある若い人や専門の人を上手に巻き込む工夫をする



これからの新田西部地区

まちづくりのタネ



#01 ふくし シルバー人材が地域で活躍できるよう、コーディネーターの発掘・育成をするプロジェクト

- まずはスモールスタートで、飲み会などから気軽に始める
- シニアが共働き世帯の子育てをサポートする
- ボランティアの基礎知識について学べる機会をつくる

#02 ふくし 高齢者の見守りを地域で自然と行える環境や場をつくるプロジェクト

- 町会会館や学校の空き教室、スーパーや薬局の一部など、既存のスペースで活用できる場所を把握する
- 超高齢社会に関する基礎知識（認知症など）を学ぶ機会をつくる
- 他地域の取組みや成功事例を学び、新田西部地区に適したモデルを検討する

#03 にぎわい 地元の農家と商店街が連携するプロジェクト

- 地元の野菜を販売するマルシェを公園や駐車場、駅前広場などで定期的に行う
- 商店街の飲食店で地元の野菜を積極的に使う
- 農家から商店街への野菜の運搬が課題となるが、シニアの健康づくりウォーキングとあわせてボランティアを募る



#04 にぎわい 新設される公園を商店街が積極的に活用するプロジェクト

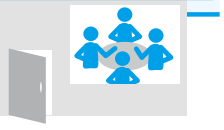
- 各店舗でテイクアウトメニューを設け、公園でピクニックを楽しめるような環境をつくる
- 公園で外部の事業者がイベントを実施する際、商店街でも積極的に関わる
- 公園の清掃・管理を地域ボランティアで行い、ポイントを貯めることで商店街で使えるランチチケットを配布する

#05 こそだて 子育てをひとりで抱え込まないよう、相談できる機会・場づくりプロジェクト

- ミニ講座、学習支援、育児相談などを定期的に開催し、顔を見ながら相談できる環境をつくる
- 誰でも自由に、気軽に参加でき、先輩ママに話を聞いてもらえる場をつくる
- 既存の子育て活動をしている団体に参加してもらえるような工夫をする

#06 つながり 空き家を活用した交流の場づくりプロジェクト

- 空き家、空き部屋でどんな世代でも参加できる夕食会を開催する
- 子どもが自由に学べて、過ごせる場にもなると思い
- 空き家所有者へのヒアリングや公募、まちの不動産屋の情報をもとに活用できる空き家を探す



#07 あんしん 防災活動に参加するきっかけをつくるプロジェクト

- 消防団と町会が一緒に訓練をしたり、A E D講習などを行うことで相乗効果を生む
- 夏祭りにくる親子連れをターゲットに楽しい企画で防災を学んでもらう

#08 あんしん 防災情報発信の強化プロジェクト

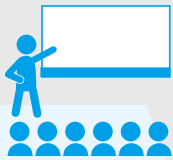
- 小学生新聞のように、子どもを対象とした防災情報を発信する
- 伝える情報を絞り込み、FMやアニメ、漫画などで楽しく伝える工夫をする
- ハザードマップをわかりやすいものに改善する
- 市の広報などに防災情報のコーナーを設けて地域の防災活動を紹介する

今年度の懇談会の進め方

今年度は、地区の方々に話し合っていたいただいた上記のプロジェクトのタネをもとに、まちなかで実現できるよう進めていきます。そのために、ゴールの共有、昨年度の取組の振り返りから始まり、プロジェクトの実践に向けた懇談会を実施した上で、すぐにスタートできる取組についてはモデル事業として実践します。最後にはモデル事業の成果を共有し、プロジェクト全体のまとめを行います。懇談会は昨年に引き続き、お茶を飲みながら親しみやすい雰囲気の中で様々な方とざっくばらんにお話をさせていただきます。その中でお住まいの地区の色々な方とお知り合いになるきっかけ、同じ考えを持っている方とつながるきっかけにもなると思います。冒頭に昨年の振り返りなども行いますので、今年からでも気軽に参加していただけます。昨年は予定が合わず参加できなかった方、今年度から参加してみたい方などは非審ってご参加ください。

STEP 1
学ぶ
振り返る

第1回懇談会



＜講演＞

コミュニティプランの目指す姿・作成後の取組などについて

＜グループワーク＞

H30 年度の取組の振り返りとプロジェクトの企画づくり

STEP 2
考える

第2回懇談会



＜グループワーク＞

H30年度に話し合われたプロジェクトのタネの具現化に向けて

STEP 3
行動する

プロジェクト トライアル



＜アクション＞

これまででまとめたプロジェクトをトライアルとしてまちなかでリアルに実践

STEP 4
まとめる

第3回懇談会



＜グループワーク＞

トライアルの振り返り・共有プロジェクトのとりまとめ

2

総合監督の小泉秀樹氏にインタビュー

Inter
view

コミュニティを起点とした共創のまちづくりの重要性

人口減、高齢化など社会状況、ライフスタイルの変化、ニーズの多様化などまちを取り巻く環境は多様で複雑になってきている中で、これからのまちづくりには何が必要になっていくのか、昨年度の地区別懇談会で総合監督を担っていただいた東京大学教授小泉秀樹氏に話を聞きました。

Q これからのまちづくりには何が必要になるのか、お聞かせください

多種多様な社会的な状況、課題に対しては協働・共創のアプローチが必要となります。1人の主体や1つの行政セクションだけで問題解決しようと思っても、もううまくいかない時代になってきているのです。

つまり市民だけ、行政だけ、企業だけで課題にアプローチしてはダメで、それぞれ連携して、力を合わせてまちづくりに取り組んでいくことが必要なのです。

地域においては市民の横のつながり、すなわちコミュニティを起点とするアプローチ、まちづくりが重要となってきます。

Q なぜコミュニティを起点としたまちづくりが重要なのでしょう

まちの持続可能性、安心を高めていくまちづくりを進めていくためには、最大の資源である「人」の力が必要となります。つまり、ひとりひとりの市民の持っている力を集めて、取り組んでいくことが重要になるのです。

そのためには「場」づくりが非常に大事で、公民館、町会会館などの公共的な「場」だけではなく、気軽におしゃべりできる、食事ができるなど、身近に何かしらの「場」が必要となってきます。そこに行くとさまざまな人に出会え

るとか、何かを学べるとか、そこでだれかと食事ができるとか、リラックスできたりと人々にとって何らかの意味があって初めて「場」と言えるものになるのです。それは使っていない民家や空き家を地域に開放するなどもありますし、その意味があれば、商店の店先で少し休憩できるベンチがある、スーパーの中のイトインコーナーでもなんでもいいわけです。

まとめると、コミュニティを起点として地域資源を活用しつつ、必要とされるさまざまな活動を、地域の方の協働によってつくりあげることが必要なのです。草加市では、市内を10のブロックに分けて、市民、事業者、行政などみんなでそのコミュニティを起点としたまちづくりをしていこうと取り組んでおり、その第一歩として懇談会がスタートしています。

Q わたしたち、市民には何ができるのでしょうか。

大きな取り組みを一気に行うといった発想は必ずしも必要ではなく、身近で小さな場所から活動を始めればよいのです。それは趣味がきっかけでもいいわけで、ある地域では、妊娠中のお母さんがヨガを朝早くに公共的な広場でやって、それをとおして同じ妊娠しているお母さんのネットワークを作るといったことをやったりして、このような楽しい活動がたくさん起こって、それら連鎖してそれで地域が元気になり、それを聞きつけた企業が協力してくれるなどの事例もあります。

ただ、やはりそういった地区の方々発意の取組、プロジェクトの中には、地区の方だけでは解決できないものも出てくると思います。そこで行政の施策と連動する必要があるので、地区



小泉 秀樹 教授
東京大学まちづくり研究室 教授
草加市振興計画審議会 会長

専門はまちづくり、コミュニティデザイン論。従来型の都市計画からコミュニティや住民の合意形成のプロセスを重視した参加・提案・協働型のまちづくりへの構造転換を提言している。2012年には都市住宅学会業績賞・グッドデザイン賞(復興デザイン賞)も受賞。

の方々、地域が行うまちづくりだけではなく行政が行うまちづくりを組み合わせたプランのようなものを作る必要があるわけです。

それが草加市で目指しているコミュニティプランになるのですが、このプランが懇談会に参加していない地区の方にもまちづくりを身近なものと感じてもらい、地区の方々発意のまちづくりが広がることになれば、草加のまちがより良いものになっていくと思いますね。

3

コミュニティプランとは

昨年から先行してスタートした2地区での懇談会を来年までの3年間をかけて実施していきます。地域課題が今までの枠を超えた市民同士の対話によって扱われ、解決のためのアイデア、アクションがその中から自然と沸き起こってくる日常を目指して、懇談会をスタートしました。

その懇談会をとおして地区ごとの具体的なまちづくりのアイデア・プロジェクトを集め、協働でアクションにつなげていくための「コミュニティプラン」をまとめることを目指しています。協働とは地域の方々のつながりも意味しますが、行政も例外でなくその協働の一員となります。

「コミュニティプラン」とは「まちづくりの基本となる計画」に描いた地区の将来ビジョンを実現していくために、右のイメージのように地域の方、行政など関係するみんながコミュニティを起点として、より良いまちにしていくための取組をまとめた「共創」により作り上げる行動計画のことを意味しています。

テーマについては限定せず、懇談会で話し合われているような地域福祉、子育て、にぎわい、つながりといったものから土地利用、空き家、公園など日頃の生活、活動に密接にかかわる幅広いテーマを対象としています。

まとまったアイデア、プロジェクトについては、それぞれ関係する誰が、何を、いつまでに、などを明確化することにより実現性を高めるとともに、懇談会に参加していない地域の方々にとってのガイドラインとなるものとし活動が自発的にまわっていくことを目指します。

